

西陣を中心とした地域のポテンシャルと課題

※参考資料に示す各種調査データ等から、西陣を中心とした地域のポテンシャル（資源）と課題について整理したもの
下線は、資料5に掲載している項目

（出典：【データ】…基礎データ，【住ア】…住民アンケート調査，【事ア】…事業者アンケート調査，【観ア】…観光客街頭アンケート調査，【ヒア】…ヒアリング調査）

ポテンシャル（資源）

○多くの新住民

- ・近年，社会動態では転入超過が続いている。（平成28年：上京区の社会動態415人増加）【データ】
- ・今出川通や堀川通沿線などの学区で人口増加（桃菌学区：人口増加率+45.8%（平成2年→27年））【データ】
- ・上京区は，居住期間10年未満の新しい住民が4割以上【データ】

○多くの学生

- ・上京区は，人口に占める大学生年代（18～22歳）の割合が市内1位（10.7%）【データ】
- ・「20年～30年後を見据え，学生に興味を持ってもらうことが必要【事ア】
- ・大学の多い地域として，若者のまちへの関心を高めることやまちづくりへの参加を期待する意見がある。【住ア】

○高い定住意向

- ・75%の住民がこの地域で暮らし続けたいと回答（高齢世代，居住歴が長いほど高い割合）。理由として，「地域や住民との関係性が良いこと」，「地域への愛着と誇り」が多く挙げられており，ほか「生活利便性」や「交通利便性」，「落ち着きや静かさが備わっていること」も比較的多く挙げられている。【住ア】

○暮らしやすさ（住まいと暮らしの多様性）

- ・住む人の暮らしやすさ重視の地域。どの世代にも住まいの多様な選択肢がある地域【ヒア】

○若い世代が住みやすく，活気のあるまちに期待

- ・住民の「少子高齢化による人口減少」に対する課題認識が高く，「若い世代が住みやすい，活気あるまち」への期待を挙げている。【住ア】
- ・事業者からみた将来のまちの姿として「若い世代が住みやすい，活気のあるまち」（32.1%）が3番目に多い。また，事業継続意向の高い事業者はこれを最も期待している。【事ア】

○濃密な地域コミュニティ

- ・学区や町内の自治活動，地域活動が今も盛ん。【ヒア・住ア】
- ・上京区は昔ながらの人のつながりが残る。子ども，高齢者の見守りも安心。自治力が明治以降受け継がれてきており，その引き継いでいく力が強み。【ヒア】
- ・この地域の誇らしい点は，人のつながり。【ヒア】
- ・まちの将来のために自分にできることとして，「自治活動・ボランティア活動への参加」に関する意見が多く挙げられている。【住ア】

○西陣地域の寛容性，若い人の地域への参加

- ・（絶対数は少ないが）地域に若い人が入って関わっている。外国人も増えてきた印象。地域が寛容になって，認識が変わって来たのではないか。【ヒア】

○新旧住民の交流が生まれている。【ヒア】

- ・ここ数年，昔はなかったような30～40代のまちづくりの担い手，面白い人材が増えている。【ヒア】

○近所に凄い人材

- ・伝統芸能の第一人者や大学の先生など，凄い人材がご近所の距離感で住んでいる。【ヒア】

課題

●エリア北西部で人口減少・高齢化

- ・エリア全体として，長期的に，人口は減少していたが近年は横ばい・微増，世帯数は増加傾向【データ】
- ・翔鸞，柏野学区など，エリア北西部で人口減少率と高齢化率が高い。（柏野学区：人口減少率△24.8%（平成2年→27年），高齢化率35.8%（平成22年））【データ】

●若年世代での定住意向は不安定

- ・若年世代ほど，この地域で暮らし続けるかどうかはわからない割合が高い。【住ア】

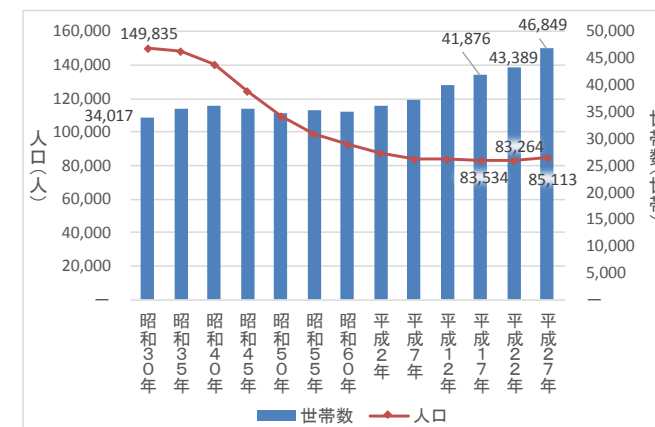
●一定の空き家が存在

- ・上京区の空き家率は全市平均（14.0%）より低いものの，12.7%存在している。（平成15年以降は減少傾向）【データ】

●町家の価格高騰，住みたい人が住めなくなる可能性

- ・事業者や富裕層からの町家ニーズの高まりで価格が高騰し，住みたい人が住めない状況【ヒア】
- ・民泊により，町の中に住んでいる人が少なくなっていく。【ヒア】

図 上京区の人口・世帯数の推移（国勢調査）



●地域のつながりの希薄化

- ・子育て世代と想定される30歳代や高齢世代（60歳代以上）で「地域のつながりが薄れ安心して暮らしにくくなっている」ことを課題としてあげる割合が他世代より高い。【住ア】
- ・学区コミュニティが維持されなくなりつつあり，要求はするが自らは協力しないという住民が増えていると感じる。【ヒア】
- ・転居したい理由として，地域や行事のわずらわしさが挙げられている。【住ア】
- ・将来のまちの姿として，10～30歳代は「人のつながりが強い，地域行事が活発なまち」を期待する割合が他世代より低い。【住ア】
- ・まちの将来のために必要なコト・モノとして「人とのつながり・助け合い」に関する意見が多く挙げられている。【住ア】

●自治会の高齢化による地域力低下の懸念

- ・自治会の高齢化，先細りが課題【ヒア】

●商店街の見守り・交流機能の低下

- ・商店街の低迷により，自然となされていた見守りや声かけが失われている。【ヒア】

●事業者と地域住民との関係づくり

- ・この地域で開業する際の課題として，地域住民との折り合いや閉鎖性等が挙げられている。【事ア】
- ・事業者のまちづくりへの参加が少ない。【ヒア】
- ・まちを盛り上げることに興味のある店主が少ない。【ヒア】

ポテンシャル（資源）

○生活に根付いた文化

- ・食文化、年中行事、地蔵盆などが生活に根付いており、この地域に住んでよかったと思うこととして評価されている。【ヒア・住ア】
- ・上京区は地蔵盆実施率が高い。(88.7%：市内2位)【データ】
- ・生活文化そのものが西陣の魅力【ヒア】
- ・西陣の生活文化は日本の文化遺産。記録して後世につないでいく必要がある。【ヒア】
- ・西陣らしいと考える暮らし方について、自由記述による意見が多数寄せられている。【住ア】

○生活文化を継承していく意識

- ・まちの将来の姿として、「京都らしい生活の中に文化が息づき、継承されるまち」(44.1%)が、世代を通じて最も期待されている。【住ア】
- ・活性化に向けて自分にできることとして、「地域行事への参加、伝え継ぐこと」や「着物や織物に触れる機会を増やすこと」に関する意見が多く挙げられている。【住ア】
- ・事業者からみた、まちの将来の姿として、「京都らしい生活の中に文化が息づき、継承されるまち」(35.8%)が2番目に多い。【事ア】

○生活に根付いた祭り

- ・西陣のまちの魅力的な事柄として、「北野天満宮の天神さん」、「地蔵盆」、「今宮祭」など京都の生活文化に根付いた祭事を挙げる回答者が西陣織の文化・産業に次いで多い。【住ア】
- ・「伝統的なお祭り」、「年中行事での季節感」を西陣らしい、体験したいと思う割合が高い。(約7割)【住ア】
- ・西陣に住んでよかったこととして、「地域の神社の伝統的なお祭りに参加したり、見学したりする」(38.7%)を挙げる割合が最も高い。【住ア】
- ・今宮神社の織姫七夕祭の復活による新たな若い力が結集し始めている。【ヒア】

○歴史や伝統文化の集積

- ・平安京からは1200年以上、応仁の乱からも550年の歴史がある。長く政治の中心。【ヒア】
- ・西陣は京都の歴史文化遺産が集積している地域。上七軒の花街、能は金剛能楽堂や河村能舞台、お茶は三千家といった一流の伝統文化がある。【ヒア】
- ・日本のカルチャーセンターと言えるほどの文化の集積【ヒア】

○防災まちづくりの取組

- ・主にエリアの西部に位置する「優先的に防災まちづくりを進める地区」を中心に、防災まちづくりの取組が進められている。(仁和、翔鸞、紫野、成逸学区で防災まちづくり計画策定済み)【データ】

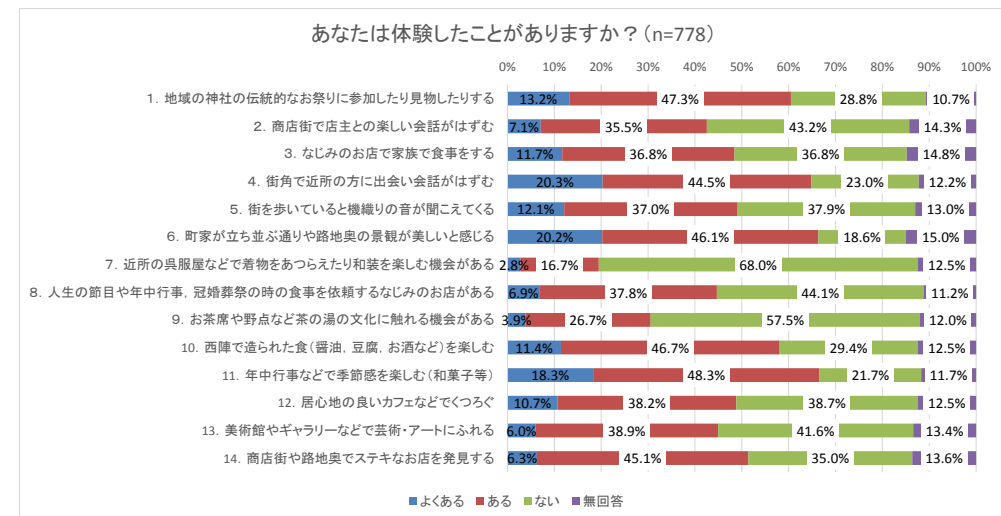
課題

●生活の中で文化を感じられる場面の減少

- ・着物をあつらえたり和装を楽しむ機会や、茶の湯文化に触れる機会を体験している割合が低い。(よくあるとする回答はそれぞれ約3%,約4%)【住ア】
- ・さらに、着物をあつらえたり和装を楽しむ機会を体験したいと思わない回答が多い。(48.1%が体験したいと思わない)【住ア】
- ・和の文化に接する機会が減り、和の作法を知らない若者が増えている。【ヒア】
- ・日本の衣食住の文化が失われつつある。和装、町家や畳、日本の食文化(季節の食材・料理)も危機的な状況にある。【ヒア】
- ・生活文化は廃れる一方であり、安くて便利な暮らしに流れてしまう。【ヒア】

●祭りの継承が課題

- ・価値観が多様化し、500年続いてきたものが続けられなくなりつつある。祭りとは生活は一体のものであるが、それが面倒だとか義務的に感じられてしまうことは課題【ヒア】



●防災・防犯面の不安

- ・柏野学区などで、「古い建物・狭い路地空間など防災防犯面での不安がある」ことを課題として挙げる住民の割合が高い。【住ア】
- ・狭い路地が多く、京町家が密集しているので火災等が不安【ヒア】

ポテンシャル（資源）

○西陣織の文化・産業の魅力

- ・住民からは「西陣織の文化・産業」が西陣の魅力的な事柄として最も評価されている。【住ア】
- ・地域への愛着と西陣の伝統への評価がこの地域での事業継続意向につながっている。【事ア】

○西陣織の高い技術力

- ・織物産地としての西陣織は、多色の糸を使うなど高い品質と、機織の高度な調整ができる高い技術力を有している担い手がいる。【ヒア】

○関連事業者の集積

- ・この地域で営業するメリットとして「関連する産業・取引先の集積」（24.5%）が（特に織物関係製造業から、また西陣織事業者の集積エリアにおいて）評価されている。【事ア】

○働き手となり得る学生

- ・働き手となり得る学生が地域に多く住んでいる。京都にはテキスタイルデザインを学ぶ学生も多い。【ヒア】

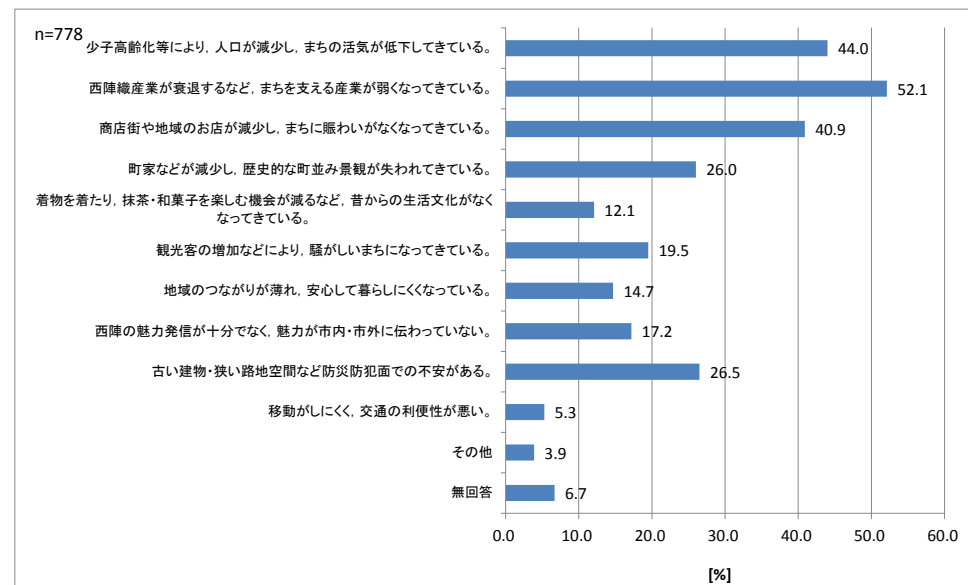
○若い世代の新しい着物ニーズ

- ・今後の着物着用の意向は20代、30代女性が高い。（着用経験者の今後の着用意向は、20代79.9%、30代71.9%、40代59.1%、50代以上50.3%）【データ】

○職人の横のつながりによる新たなものづくりの可能性

- ・織物に携わる職人同士の横のつながりが増加（京の伝統産業わかば会、いとへんユニバース等）【ヒア】
- ・若手の伝統工芸メンバーが組んで新たな商品を生み出す仕掛け、チャレンジが生まれている。【ヒア】

図 西陣のまちの課題（住民アンケート調査）



課題

●西陣織産業の低迷

- ・西陣織の総出荷額が約9割減（平成2年→平成26年）となり、企業数・従業者数も長期的に減少している。【データ】
- ・住民から見たまちの課題として「西陣織産業が衰退するなど、まちを支える産業が弱くなってきている」（52.1%）ことを半数が挙げており、概ね年代が上がるにつれてその割合が高くなっている。【住ア】
- ・事業者から見たまちの課題として「西陣織産業が衰退するなど、まちを支える産業が弱くなってきている」（62.3%）ことを挙げる割合が最も高い。（※繊維業関の回答割合が高いことに留意）【事ア】
- ・事業継続意向が弱い理由として、業績悪化による事業継続の難しさの意見が目立つ。【事ア】
- ・海外展開できる製品開発や、それを支援する投資が必要【ヒア】
- ・西陣織産業は衰退しているのではなく、差が広がっているのではないか。【ヒア】

●西陣での生産と流通の課題

- ・西陣織は職人をしっかりと育成し、西陣の地で生産することが重要（西陣で生産されていないケースも多い）【ヒア】
- ・流通の構造に問題が多い。流通の過程で価格が上がるが、メーカーや職人に還元されない。【ヒア】

●人材確保、技術継承が課題

- ・「人材確保に関すること」（35.8%）を経営課題としてあげる割合が最も高く、特に100年以上の営業年数の事業者で高い。【事ア】
- ・製造業（織物関係）の経営上の課題は「人材確保に関すること」、「技術向上・継承に関すること」、「販路開拓・広告宣伝に関すること」が多数【事ア】
- ・西陣織の職人の単価が安いことも問題。安い賃金では、若い人は家族を養えない。【ヒア】
- ・西陣の求人気づかない。職人になりたい、繋がりたいと思っても情報源や入口がない。【ヒア】

●困っていない企業の存在

- ・不動産収入があり困っていない企業もある。西陣織の将来を模索するには、危機感をもって取り組む人を見つける必要がある。【ヒア】

●和装を楽しむ機会の減少

- ・着物ファンだが着る機会がないとの声を聞く。着物を着て出かけることができる場を増やすことが重要【ヒア】

●西陣織を身近に感じられる機会が少ない

- ・住民が「街を歩いていると機織りの音が聞こえてくる」ことを体験した割合は約半数で、西陣らしいと思う事柄や、今後体験したいと思う事柄としてもあまり評価されていない。【住ア】
- ・西陣で西陣織を買おうと思っても、買える場所がない。【ヒア】

ポテンシャル（資源）

○新たなものづくりのまちの可能性

- ・ 少なくない人数の若手職人等が織屋建ての町家等に入居し、職住一体で新たなものづくりを始めている。【ヒア】
- ・ 西陣は、職人の住むまち、ものづくりのまちであり、フィレンツェのイメージ。家賃が比較的安く、若手の職人や芸術家が住むことでものづくりのまちになる。【ヒア】

○西陣織で培われた美意識、デザインの蓄積

- ・ 西陣織に日常的に接している方が多く、高度な美意識、感性を持っている。【ヒア】
- ・ 西陣に蓄積されてきたデザインは、大きな資源。【ヒア】

○「ものづくり・職人のまち」としてのイメージ・期待

- ・ 住民が持つ西陣のイメージは「西陣織などのものづくり・職人のまち」（28.3%）が最多。特に若年世代（10～30代）がそのイメージを強く持っている。【住ア】
- ・ 高齢世代と比較し、若い世代の方が「西陣織産業の低迷」をまちの課題として捉える割合が低く、「西陣織をはじめとしたものづくりのまち」を将来のまちの姿として期待している。【住ア】

○クリエイティブな拠点・場の増加

- ・ 町家スタジオ（H11～）、西陣産業創造會館（西陣 I T 路地は H15～）、コワーキングスペース（385PLACE（H28～）、IMPACT HUB Kyoto（H28～））、堀川団地の再整備、西陣織会館のリニューアルなど、クリエイティブな拠点が増えている。【ヒア】

○多様性を許容するまち

- ・ 京都は寛容性が低いと言われる中で、西陣は多様性を許容するまち。ものづくりを含め、創造性を喚起する上で多様性は非常に重要【ヒア】

○京町家や低家賃の不動産の活用可能性

- ・ 京町家の活用や貸事務所の家賃が安価といったことが、新規開業への資源として挙げられている。【事ア】
- ・ 最近ではゲストハウスなど京町家を活用した事業者が増えてきた。【ヒア】
- ・ 特に東京など、京都外から、活用できる不動産を求めるケースが増加している印象【ヒア】

○準工業地域としての強み

- ・ ものづくりの音が聞こえて当たり前という地域、住民の意識【ヒア】

○職住一致・近接のまち

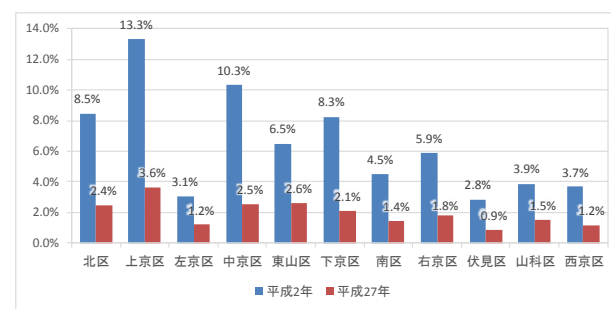
- ・ 西陣は職住一致の西陣織で発展してきたまち【ヒア】

- ・ 区内常住の就業者のうち自宅で製造業に従事している割合は上京区が全市で1位【データ】
- ・ アンケート回答者の勤務地・通学地は「自宅」が24.2%、「この地域内」が12.8%（合計37%がこの地域内で通勤・通学）。「成逸」「聚楽」「中立」学区では職住一致・近接が6割を超えている。【住ア】

○職人文化（繁華街、食文化）

- ・ 西陣織に携わる職人により、繁華街の賑わいや、パン・丼や仕出しなど食文化が生まれた【ヒア】

図 行政区別・区内常住の就業者のうち、自宅で製造業に従事している人の割合（国勢調査）



課題

●地域を支える産業の不在

- ・ かつては西陣織産業が地域を支え、経済循環していたが、現在はそれに代わる産業が見当たらない。【ヒア】

●事業者間（同業種・異業種）のつながりが弱い

- ・ 事業者間のつながりが、近所、同業種であっても意外に弱い。【ヒア】
- ・ 20年後の事業継続要件として、他事業者との連携が挙げられている。【事ア】

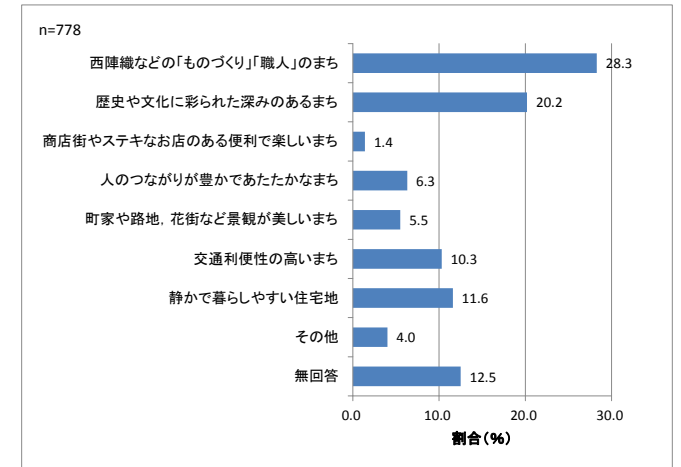
●コーディネート力の不足

- ・ 様々な分野で魅力的な人物や事業者が多い。コーディネートしてつながると良い。【ヒア】
- ・ 西陣織やそれに関連する技術集積等があるが、それを他の技術や産業等とつなぐコーディネート力がエリア内に不足している。【ヒア】

●事業継続意向が高くはない

- ・ 事業を「続ける・是非続けたい」が約30%、「できることなら続けたい」が約32%、西陣地域での事業継続意向がない、または弱い回答が2割強（特に、20年～100年の営業年数の事業者で事業継続意向が弱い）【事ア】

図 西陣のまちのイメージ（住民アンケート）



●職住一致の減少

- ・ 西陣織産業の衰退により、上京区常住の就業者のうち、製造業従事者の職住一致（自宅で従事）は13.3%→3.6%に減少（平成2年→平成27年）【データ】
- ・ 「製造業（織物関係）」の事業者は「住まいと近い」（17.4%）ことをこの地域で営業するメリットとしてあまり評価していない。【事ア】
- ・ マンション住まいの新住民など、地域外で働く人が増加し、地域とは交わらない。【ヒア】
- ・ アンケート回答者のうち、近年人口が増加している「桃薫」学区では職住一致・近接は2割以下。【住ア】

ポテンシャル（資源）

○商店街の集積

・商店街が隣接して連続しており、連携による新たな展開の可能性はある。【ヒア】

○おしゃれなお店の増加

・おしゃれな店が鞍馬口通に増えてきている。【ヒア】
 ・居住歴の短い人ほど、西陣に住んでよかったこととして、町家等の景観や商店街や路地奥などのステキなお店、西陣の食などを挙げる割合が高い。【住ア】

○レトロな魅力・クラフト感のあるまち

・町家を使った店や、こだわりの店など、魅力が多いエリア。回遊できれば観光客は増える。堀川商店街など、クラフト感のある店がある。【ヒア】

○歩いて楽しめる発見のあるまち

・道が細く一方通行が多いが、だからこそ歩いて楽しめる、探してみることを楽しめるまち【ヒア】
 ・おしゃれなお店が増えており、歩いて見つける楽しみがある。【ヒア】

○賑わいを創出する企画

・西陣の朝市マルシェなど賑わいを創出する企画があると、直接産業振興につながらなくても、居住意欲につながる。【ヒア】

○多彩な市民活動

・応仁の乱での「東陣」に着目したプロジェクトでは、市民が中心となり、連続講座やまち歩きのほか、寄付金を募り、石碑や案内板の設置を進めている。【ヒア】
 ・上京区や北区のまちづくり活動・提案支援事業を活用した市民主体の多彩な取組が進められている。【ヒア】

○知られていない多彩な地域資源

・西陣のまちの魅力的な場所は、「北野天満宮」、「上七軒の町並み」、「清明神社」等観光スポットとして知られている場所を挙げる回答者が多い一方で、それ以外の場所も多数挙げられており、魅力的な場所が潜在的に多く存在している。【住ア】

○多くの文化財、寺社

・上京区の文化財数は345件（市内4位）と多く、文化財の密度も高い。（市内2位）【データ】

○寺社巡り・景観への観光客ニーズ

・次回の西陣地域に求める観光への期待は、「寺社巡りや京町家などの風情ある景観を見る」が最も多い。（71.4%）【観ア】

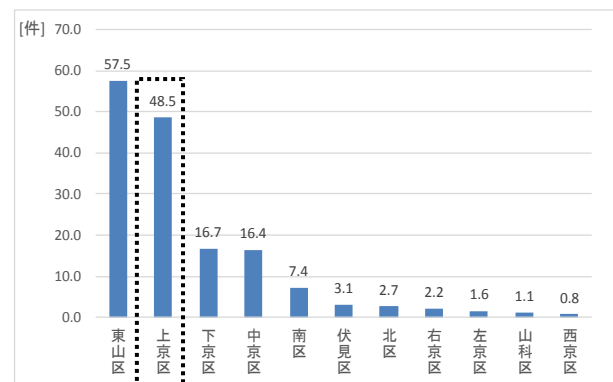
○じっくり観光するエリアとしてのニーズ

・「できるだけ多くの観光スポットを巡る観光がしたい」（26.3%）よりも「観光スポットを厳選して、じっくり観光したい」（67.1%）が支持されている。【観ア】
 ・観光客からは「人が少ないことや穴場的な場所」であることへの評価も見られる。【観ア】

○外国人からの伝統文化鑑賞ニーズの高まり

・外国人観光客の京都への来訪動機で、「伝統文化鑑賞」の回答割合が5年間で21.9%→53.4%と2.4倍に増加（平成23年→平成28年）【データ】

図：行政区別文化財の密度
（1平方キロメートル当たりの件数）



課題

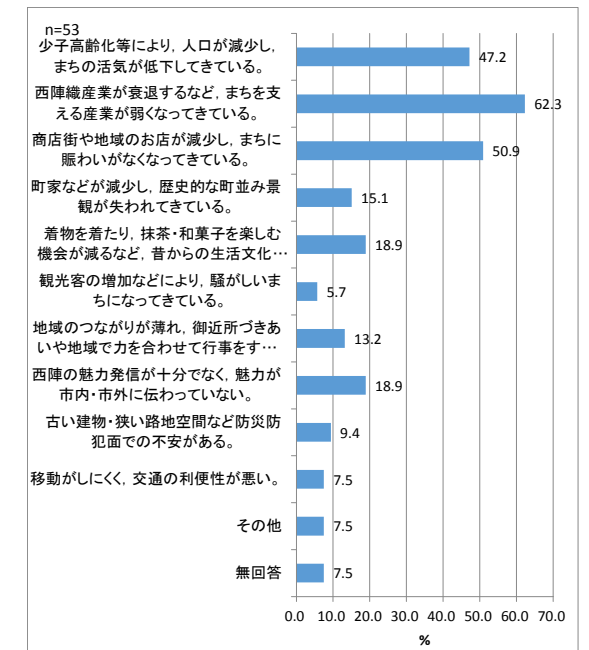
●商店街の低迷

・卸売事業所数・小売事業所数とも約5割減少（平成6年→平成26年）【データ】
 ・事業者からみたまちの課題として「商店街や地域のお店が減少し、まちに賑わいがなくなっている」ことを挙げる割合が半数以上（50.9%）。【事ア】
 ・まちの賑わいにつながる飲食店等が少ない。（特に夜の飲食店が少ない）【ヒア】
 ・事業者とまちが元気になるアイデアとして「商業活性化」に関する意見が多い。【事ア】

●まちの賑わいの低下

・住民からみたまちの課題として「まちの賑わいが失われている」（40.9%）が4割を超える。（特に40～70歳代で高い）【住ア】

図 まちの課題（事業者アンケート）



●観光客がスポットに偏在、低い回遊性

・観光客が北野天満宮や西陣織会館などに偏在し、地域内の回遊性が低い。（観光スポット等を2箇所以上訪れた割合は約51%、3箇所以上では約25%）【観ア】
 ・寺社や観光スポット以外での西陣地域の観光（体験や宿泊、買い物など）を楽しむことが少ない。【観ア】
 ・この地域への観光客は京都の中心繁華街と観光拠点である「四条河原町・烏丸」、「東山」と、周辺の主な観光スポットである「金閣寺・龍安寺・仁和寺周辺」の前後に滞在している傾向がある。【観ア】

●西陣織や文化体験への観光ニーズは高くはない

・次回の西陣地域に求める観光として、「西陣織などの伝統産業の工房見学・体験」（10%）、「着物、茶道、能・狂言などの文化を体験・鑑賞」（8%）、「京都で継承されてきた生活文化（衣・食・住）を体験」（5%）のニーズは高くはない。【観ア】

●西陣の魅力が広く伝わっていない可能性

・観光客（日本人）の訪問先で、「西陣・北野周辺」は6.9%の市内14位【データ】

●観光に際して、交通利便性の低いエリアがある

・西陣地域の観光に足りないものとしては、「便利な交通」が最も多く、移動手段への不満が見られる。【観ア】
 ・集客が難しい。特に西の方はアクセスが悪い。【ヒア】

●観光客増加と暮らしとの共存

・「観光客の増加」への住民の課題認識は一定程度あり、観光客の増加による活性化への期待は低い。（6.4%）※学区により差異があり、成逸学区は他と比べて課題認識が低く、期待が高い。【住ア】
 ・事業者は「観光客の増加」をまちの課題と認識しておらず（5.7%）、「イベントや観光による活性化（インバウンド対応・テーマパーク化）」を期待する意見も見られる。【事ア】

ポテンシャル（資源）

○京町家や歴史的な景観

- ・上京区の京町家数は8,521軒で市内1位【データ】
- ・上京区の景観重要建造物（39件）、歴史的意匠建造物（49件）、歴史的風致形成建造物（35件）の数が市内1位【データ】
- ・歴史的町並み景観の地区指定として、上京小川地区が「歴史的景観保全修景地区」、千両が辻地区と上京北野地区が「界わい景観整備地区」に指定【データ】

○京町家や景観の美しさが西陣に住む魅力

- ・西陣に住んでよかったこととして、「町家が立ち並ぶ通りや路地奥の景観が美しいと感じる」（31.1%）を挙げる割合が高く、居住歴が短いほど関心が高い。【住ア】
- ・「町家や路地奥の景観」について「西陣らしいと思う」、「体験したことがある」（感じ取っている）割合が高く（約7割）、若い世代ほど町家や景観への関心がある。【住ア】
- ・まちの活性化に必要なこととして、自由意見でも「町並みの保全や維持」に関する意見が多い。【住ア】

○事業を営む上でも歴史・文化や町並み景観は魅力

- ・この地域で営業するメリットとして「歴史・文化の蓄積、町並み・景観等の周辺環境から新たな発想が生まれやすい」（22.6%）ことが評価されている。特に概ね堀川以东や一条通以南の学区で評価されている。【事ア】

○町並み景観がこの地域の観光の目的・魅力

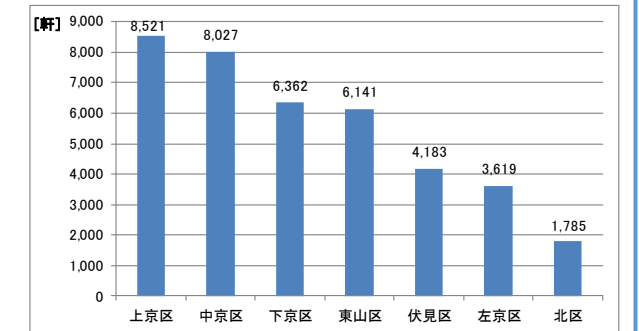
- ・次回の西陣地域に求める観光への期待は、「寺社巡りや京町家などの風情ある景観を見る」が最も多い。（71.4%）【観ア】

課題

●京町家や歴史的な町並み景観の減少

- ・上京区内で1,209軒の京町家が滅失（7年間、平成20,21年→平成28年）【データ】
- ・住民の課題認識として、「町家などが減少し、歴史的な町並み・景観が失われてきている」を挙げる割合は必ずしも高くはない（26%）。ただし、40歳代や「西陣」「桃菌」学区では、4割弱が課題として認識【住ア】
- ・集合住宅が多く建ち、虫食いの駐車場ができている。また、大きな間屋等がなくなれば、土地を分割して普通の住宅が建つなど、空間的な変化により景観の崩壊が見られる。【ヒア】
- ・産業の衰退により町家を使う担い手が少なくなっている。【ヒア】

図 行政区別京町家軒数（京町家まちづくり調査に係る追跡調査、平成28年）



●京町家の空き家率の上昇

- ・京町家の空き家率が上昇（10.3%（平成20,21年）→13.8%（平成28年））【データ】

●京町家に合う建物を増やす必要

- ・京町家を保全するとともに、平成の京町家など、京町家に合う建物を増やしていくことが重要。【ヒア】

ポテンシャル（資源）

○西陣のブランド力

・この地域で営業するメリットとして「西陣のもつブランド力」（28%）が（特に織物関係製造業において）最も評価されている。【事ア】

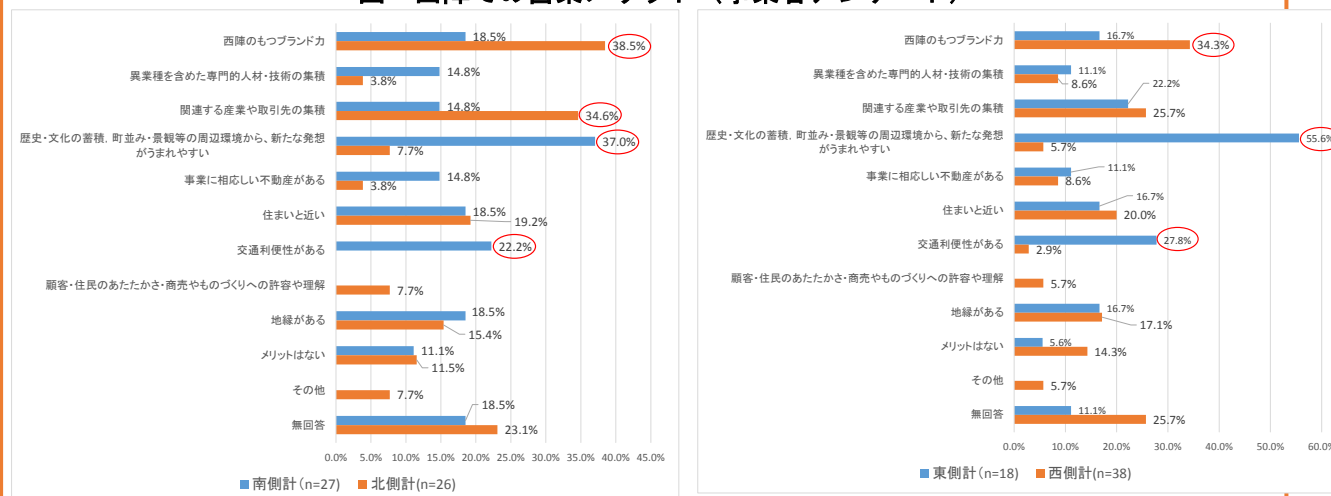
○「西陣のブランドイメージ」や魅力とマッチした起業・進出等

・古きよき京都らしい生活や文化に出会える場所として、事業者が西陣に起業・進出し始めている。【ヒア】
 ・西陣のブランドイメージをうまく活用すれば、ベンチャーの聖地にもなり得る。【ヒア】

○クリエイティブな事業者からの評価

・デザインや美術、ソフトウェアなどクリエイティブな事業者にとって、本店や事務所が京都にあることのブランド力は他とは違う。【ヒア】
 ・有名なアーティスト等が西陣に魅かれて集まってきている。【ヒア】

図 西陣での営業メリット（事業者アンケート）



○自転車で移動できるコンパクトな地域

・西陣地域内は自転車で移動するには不便はない。【ヒア】

○事業メリットとしての交通利便性があるエリアも

・概ね堀川通以東の元学区や概ね一条通以南の元学区に立地する事業者は、「交通利便性がある」ことをこの地域での事業メリットとして挙げる割合が比較的高い。【事ア】

○拠点整備

・堀川団地の再整備など、事業者がチャレンジする場がいくつかでてきている。【ヒア】
 ・統合した元小学校（元西陣小、元聚楽小、元待賢小）など、活用可能性のある場所がある。

○文化庁の移転

・遅くとも平成 33 年度中に、文化庁が現京都府警察本部本館へ移転

課題

●地域全体の魅力、ブランドの発信不足

・20年後の事業継続要件として「ブランド力の確保」を挙げる意見が目立つ。【事ア】
 ・西陣の知名度向上・全体での魅力発信による誘客が求められている。【事ア】
 ・活性化には「西陣の歴史・文化、魅力情報の発信」が必要、また自らも取り組んでいる・取り組みたいという意見が多い。【住ア】

●新しい西陣のブランディングが必要

・西陣織のまちだけでなく、新たなブランディングが必要【ヒア】

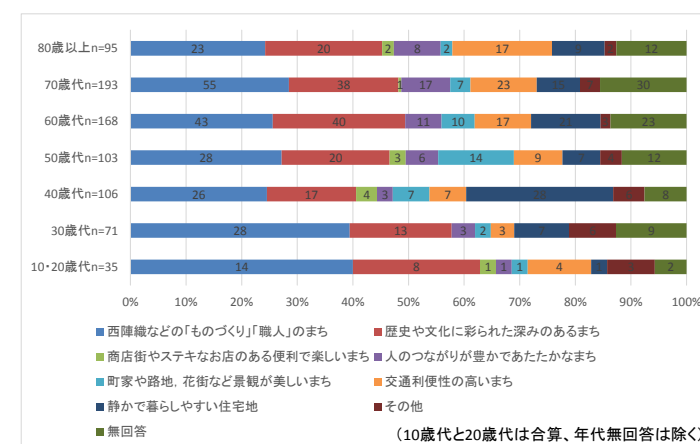
●西陣の多様な魅力が伝わっていない

・若年世代（10～30歳代）の住民が西陣にもつイメージは「西陣織などのものづくり・職人のまち」（40%程度）が最多だが、若年世代がそれ以外の特徴を知る機会や情報が不足している可能性がある。【住ア】

・「西陣の魅力発信が十分でなく、魅力は市内・市外に届いていない」ことを課題としてあげる割合が、若年・現役世代ほど高い。（10～50歳代）【住ア】

・西陣での起業を勧める際に必要なこととして「知名度向上や魅力発信による誘客」に関する意見が挙げられている。【事ア】

図 年代別西陣のイメージ（住民アンケート）



●交通利便性の低いエリアがある

・移動がしにくく、交通の利便性が悪いことを西陣の課題としてあげる割合は、全体では低いですが若年世代ほど課題とする割合が高い（10～40歳代で10～20%）。【住ア】
 ・転居したい理由として「より高い交通利便性」（駅からの距離、バスの混み具合の改善）を求める意見が見られる。【住ア】
 ・今出川通東西の移動が不便【ヒア】
 ・堀川以西の地価が低い理由の1つに交通の不便さがある。
 ・特に西の方は交通アクセスが悪く、観光客だけでなく、市外に働きに行く人などは住みにくいのではないか。【ヒア】
 ・この地域での起業等を勧める際に必要なこととして、「交通利便性」に関する意見が多く挙げられている【事ア】

●拠点の不足

・アートプロジェクトなどを広げる際の起点となるような拠点施設がない。【ヒア】
 ・活性化の方向性として、「人が集まる場所」や「文化・歴史を体験・学べる拠点」が必要との意見も見られる。【住ア】